

平成30年度第5回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成30年10月5日（金） 午後1時30分～4時55分
2. 開催場所 文化ホール 大会議室・多目的室
3. 出席者 志村はるみ委員長職務代理、椎名武博委員、大和正明委員、
安倉史典委員、林典子委員、矢野眞理委員、桑田佳雄委員、
浅賀博委員、樋口祥明委員、坂本富彦委員 以上10名
4. 欠席者 粉川一郎委員長
5. 発表者 提案者7名（同席：市関連部署9名）
6. 事務局 豊田課長、金井係長、杉山、鈴木
7. 傍聴者 16名（定員20名）

※議題（1）・（2）は、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

8. 会議内容

- （1）平成30年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／
スケジュール及び評価の確認について
- （2）平成30年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／
最終提案の確認について
- （3）平成30年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - ②プレゼンテーション

提案1 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座（こむnetちば）

提案2 武西の里山 保全と調査事業

（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業

（NPO法人里地里山保全ねっと）

提案4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

提案5 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

（NPO法人エコネットちば）

③審査結果発表・講評

9. 審査記録

（3）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

事務局説明

・本日のスケジュール及びプレゼンテーションの方法、注意事項について説明した。

②プレゼンテーション

提案1 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座（こむnetちば）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問）受講後の傾聴活動では、ボランティアに対する報償を検討しているか伺いたい。

（提案者回答）類似の事業を行っている他市で有償の事例がある。担当課と協議して検討していきたいと考えている。

（質問）受講者の集め方や掘り起こしについてなにか考えがあれば伺いたい。

（提案者回答）未経験者だけでなく、現在傾聴ワーカーとして活動している方にも、スキルアップも兼ねて声をかけたいと考えている。

（高齢者福祉課回答）団体との協議では、市広報やホームページ、行政回覧や関係各所でのポスター設置により周知を進めることとなっている。

（質問）傾聴活動は、グループと個別の活動のどちらを想定しているか。また、活動に必要な人数は何名程度か。

（提案者回答）自宅への訪問は2人1組での活動を考えている。また、30名を目安と考えている。

（質問）ボランティア登録の内容について伺いたい。

（提案者回答）市への登録を想定している。類似の事業を行っている他市では、個人情報保護の確約書を提出してもらい、毎年更新する方式をとっているところがある。本事業でも取り入れたいと考えている。

（質問）個人情報の取扱いは、はじまってから問題が発生するようではいけない。市の責務も問われることになる。傾聴活動が始まる前に、具体的な対応策を検討しておく必要があるのではないか。

（提案者回答）他市の事例を参考に検討を進めたい。

（質問）受講者全員がボランティア登録するのか、個々の受講者の適正を見極めた上で登録するのか。慎重な対応をお願いしたい。

（提案者回答）貴重なご意見として伺う。

（質問）養成講座の実施と並行して、傾聴活動の計画を立てていく必要があると思われる。

（高齢者福祉課回答）地域包括支援センターと連携を図りながら、計画を進めていきたい。すでに企画提案の内容については先方に伝えている。

提案2 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問）市民にはあまり活動が知られていないと感じる。発表や公開の場、イベントの実施などにより、幅広い市民へのアピールが必要ではないか。

（提案者回答）北総里山会議が提案し、市も賛同している整備方針があるが、市としての具体的な活用計画の策定には至っていない。今後、保全観察路や保護柵の設置などが具体化すれば、進んで市に協力していきたいと考えている。公金を投入して整備が進んでいる里山が、十分に活用されていない現状は団体としても残念に思っている。団体の自主事業や市民アカデミー受講生の見学会など、すでに活用事業は一部行われているが、今後は公開・活用の取り組みをさらに推進していくことが大変重要だと考えている。

（質問）市民が里山を訪れてもらうことも大切だが、調査された自然環境の成果を無形資産として広く活用していくことに、より高い価値を感じる。作成したモニタリング報告書を基に講座を行ってはどうか。

（提案者回答）関係者や図書館などには無償配布している。講座の開催はいいアイデアなので、参考にさせていただきたい。

（質問）モニタリング調査により貴重なデータが得られていると思う。子ども向けの環境教育にも有用だと思うので、なにか計画があれば伺いたい。

（提案者回答）白井市谷田地区を中心に、自主事業の里山学校を通年で実施している。白井市では保育園や小学校の支援も行っている。将来的には武西地区でも実施できればと思う。

（質問）環境調査は継続することが非常に重要である。後継者の育成にも取り組んでいただきたい。

（提案者回答）積極的に取り組みたい。

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の保全事業

（NPO法人里地里山保全ねっと）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問）事業をはじめたきっかけはなにか。また、新たな参加者の状況や活動成果について伺いたい。

(提案者回答) 団体の会員は多くが地域住民で、地域住民が自主的にはじめた活動である。会員数は昨年より増えている。対象地の谷津はきれいに整備されたが、活動中にイノシシを発見しており、短期間で簡単に成果が出るものではないと感じている。

(質問) 捕獲計画を作ることはできないか。

(提案者回答) 団体の会員で3名が狩猟免許を取得している。

(農政課回答) 猟期は11月から2月の3ヶ月間で、許可は市が出している。しかし、殺処分の問題もあり、団体に対し安易に捕獲の依頼はできない。一方で、イノシシは臆病な性格のため、整備された区域には現れない習性がある。実証的な意味合いを含め、市として手が回らない整備活動を地域団体と協働で行っている点に意義があると考えている。市では捕獲の目標を800頭としているが、生息するイノシシの数は非常に多く、それで十分とは言えない。

(質問) 整備対象エリアを今後広げる見込みがあれば伺いたい。

(提案者回答) いには野小学校周辺の耕作地が荒れているので、今後整備地に加えていきたいと考えている。一度手を入れておけば、次回からの整備が容易になる効果もある。

(質問) 今年度、千葉県里山条例が改正された。この事業とは少し趣旨が違うかもしれないが、制度をうまく利用して県の認証を受ければ、事業展開の有効なツールになる可能性もあるので、検討していただきたい。

(提案者回答) ありがとうございます。

(質問) イノシシの痕跡調査などの成果について活用・公開する計画があったら伺いたい。

(提案者回答) 報告書にまとめる方向で担当課と協議している。団体のブログなどで発信に努めたい。

提案4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 担当課の事業に対するスタンスと、団体への期待について伺いたい。

(防災課回答) 要支援者や危険箇所の把握、民生委員とのつながりなど、市の関わりが必要なものについては、担当課として積極的に役割を果たしたいと考えている。また、マニュアルづくりや未設置地域の解消など提案メニューが大変多い中で、町内会などへの働きかけなどにも市が関わる

必要があると考えている。自主防災組織といっても活動は年1回の防災訓練のみという団体があり、市としては、学習会などで防災について考えるきっかけを作っていただけるだけでも自主防災組織の活性化につながると考えている。そうしたプラスアルファの部分を特に期待している。

(質問) 市がやるべきことを代行しているような、優れた事業という印象がある。アンケートの実施結果についてもう少し詳しい説明をお願いしたい。

(提案者回答) 自主防災組織の結成率は千葉ニュータウン地区で9割超、在来地区は消防団やそもそもの地縁が強いからか全体的に低い。ただし、低いから一概に問題だとは言えないので、この点については引き続き調査したいと考えている。自主防災組織の役員と町内会役員を重複して受けているところが6割程あり、1年で交代となるケースが多く見受けられる。また、要支援者の把握は大きな課題であり、マンションでは特に顕著である。その他にも、避難所運営や在宅避難、災害ボランティアセンターの受け入れなど多くの課題があり、担当課と連携しながら取り組んでいきたい。

【指定テーマ】

提案5 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 後継者の育成は重要な課題だと思われる。団体の状況や見通しについて伺いたい。

(提案者回答) 会員の高齢化は当然進んでおり、年齢は50代が1人、多くは60代で、70代も数名いる。正会員は15名だが、花植えや除草作業などでは準会員やボランティアの協力者にも手伝っていただいている。若い方は仕事がありなかなか参加は難しい。

(質問) 他の施設で地域団体による維持管理事業を検討しているか、市に伺いたい。

(都市整備課回答) 非常に優れた取り組みモデルであり、他にも実施できる場所があれば進めていきたいが、現状では事業の継続性という点で課題があると考えている。

③ 審査結果発表・講評

志村委員長職務代理の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

提案	提案名（提案者）	○	△	結果
1	訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座 （こむnetちば）	9	1	適
2	武西の里山 保全と調査事業 （NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）	9	0	適
3	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業 （NPO法人里地里山保全ねっと）	10	0	適
4	自主防災組織の活性化事業 （印西防災研究会）	10	0	適
5	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 （NPO法人エコネットちば）	10	0	適

※提案2は矢野委員が利害関係者のため審査には参加せず、9名で実施。

審査結果の発表後、志村委員長職務代理と坂本委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約し、提案ごとに講評を行った。（下記参照：提案1～5）

最後に、志村委員長職務代理が以下のとおり全体の講評を行った。

今回、全体的に多く見受けられた委員からの意見は、他の組織主体と連携を図ることや、積極的に市民への活動を周知することであった。NPOと市の協働では、往々にして二者間だけの関係に終始してしまうきらいがあるが、企画提案型協働事業の本来の目的は、事業を実施することではなく、地域の課題を解決するためである。団体も市も、この点を強く認識し、活動の成果をより高めるよう頑張っていたきたい。

同時に、事業を実施している間に、知恵を出し合い、先を見越した持続可能な形を見つけだしていただくようお願いしたい。そうした取り組みが、結果として印西市の価値をさらに高めることにつながると思う。

提案1 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座（こむnetちば）

【各委員の意見】

行政制度をカバーする事業として期待します！

- ・時代のニーズにあった事業であると思います。受講者の輪が広がることを期待します。

- ・地域や高齢者のニーズは十分ある。
- ・実現性のある計画だと思います。
- ・市の関係部内との連携も十分取られているようであるので、うまくゆくと思います。
- ・制度のすき間をうめる活動として先行事例（他地域のモデル）となるようすすめて下さい。
- ・行政の制度だけでカバー出来ないことが多くあると思う。活動を通じて賛同者、協力者を増やしてほしい。

講座受講者について

- ・講座受講者の参加について、印西市のどの地域を対象とされているかを明確にして下さい（初年度）
- ・立派なカリキュラムだと思いますが、受講される方達のメリットが少なすぎるような気がする。

担い手を増やす

- ・立ち上げ後、ボランティアが長続きするような工夫が必要だと思う。
- ・ご苦勞が多い分野であるので、近隣の活動団体とも連携してほしい。

講座終了後の方策を具体的に描いてほしい

- ・養成講座終了後のスキーム・システムを早いうちに構築して下さい。
- ・実施後の訪問傾聴ワーカーの具体的な活動方法を明確にしてください。
- ・将来構想についてももう少し具体的に描いて下さい。必要性は非常にあると思います。
- ・人材の育成は重要ですが、人材の活用が明確でないと効果が十分発揮できません。2～3年目のありたい姿の明確化と、それに向けた1～3年のロードマップを描いて、活動を推進してください。
- ・講座修了者が速やかに地域での活動を行うことができるよう、本事業と並行して諸問題の整理・解消を計画的に進めて下さい。
- ・個人情報保護法等懸念される課題について、具体的対策が先送りされている。今後の課題としたまま事業のみ進めるのは不安がある。

提案2 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

【各委員の意見】

里山保全活動の成果の発信に期待！

- ・貴重な自然資産を守ることは大切。今後は情報公開や場所の案内等も進めてほしい。

- ・すばらしい保全・調査事業だと思います。調査結果に関する公的発表を是非やって下さい。
- ・成果はもう少し幅広い市民の間で共有すべきだと思う。
- ・環境保全と共に調査報告書の作成といったアカデミックな事業であると思います。市民への広報・周知を進めていただきたい。
- ・市民への環境教育に関する具体的計画はありますか？
- ・地域の貴重な自然資産の維持の活動は、大変な場面も多いと思いますが、末永く活動が継続されるよう願っております。
- ・成果の集大成として、里山を活用したイベントを行ってはどうか。
- ・すばらしい報告書ができていますので調査結果報告書を活用してほしい。報告会（フォーラムなど）されてみたらいかがでしょうか。

市の積極的な関わりを！

- ・市のメリットとしてあげられているモデルケースをどう活かしていくのか？
- ・「里山活動保全の手法」を市民にどう還元するのか、どう見せるのか、2年目以降、市と検討しながら実施していただきたい。
- ・「印西武西の里整備方針」があり、具体化の方向のようであるので、今後さらに連携を深めていただきたい。共同事業の効果出し期待。
- ・都市に隣接した里山のあるべき姿（印西市版）や里山保全の為の管理原則（ルール）等を構築していただきたいと思います。
- ・整備されている里山に市民がいつでも入り、やすらぎなど感じられる場所になるよう、市の計画を早めてほしい。

その他

- ・協働に関するコストバランスが良いと思いました。但し、研究費が計上されていない理由は何故でしょうか？
- ・なぜか自分達の自己満足で終わっているような気がします。

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業

(NPO法人里地里山保全ねっと)

【各委員の意見】

有益事業 効果測定について

- ・獣害対策と環境保全が結びついた有益な事業であると思います。
- ・今回の協働事業を実施することで目に見えた効果はあったのか。
- ・イノシシの生息数の実態調査等、事業の効果測定の実施・報告をする仕組みを整えて下さい。今後の事業対象地の選定基準を整える際の参考に

なると思います。

- ・イノシシの被害、減少など効果が検証できるまでに、時間がかかると思いますが、協働事業終了後、継続していくための仕組みを市と検討しながら進めてほしい。
- ・草刈りをしてはなぜかイタチゴッコのような気がしますが。

地域住民の安心 反応は？

- ・地区の人たちが安心して暮らせるよう、環境整備を引き続きよろしくお願ひします。
- ・住民の反応はどうか？一年間実施状況（推進）の結果の、住民の反応は…。

結果の広報等

- ・調査結果について、広く市民に周知・公開する機会をつくっていただきたい。
- ・プレゼン資料に生物多様性の向上とあるが、どのように向上するか、ねらいと見通しはありますか。

市、関係団体との役割分担

- ・協働事業としての市の役割は具体的にありますか。
- ・関連団体・市との連携を含め、継続期待。

提案4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

【各委員の意見】

目標を明確に 成果出し期待

- ・協働事業2年目の提案として進展が見られ、それを反映した事業計画だと思います。予定通り実施できるよう頑張ってください。
- ・自主防災組織連合会の新規立ち上げについて、是非実現させてほしいと思います。
- ・2年度目は結果を求められます。防災会ができない事由を調べ、対策を考えていくことが大切だと思います。メンバーの問題、資金の問題、関心を持ってもらうことが色々あります。
- ・より具体的な目に見える目標を掲げてほしい。
- ・事業の主な目的が啓発活動とありますが、成果が不明瞭になりはしないか。

関係先との連携

- ・地域住民の実態把握が難しい中でのチャレンジですので大いに期待します。印西市以外の地域のモデルになることを期待します。
- ・骨の折れる活動である。近隣市町村での活動団体との連携を深めていただいては。
- ・事業ボリュームが大きいようですが、新しいマニュアルの内容も必要な情報だと思しますので、他組織とも連携しながらすすめてください。
- ・民生委員とはどのように連携するのか？

ターゲットとアプローチを絞り込み 方法

- ・戸建住宅と管理組合を有するマンションでは防災に対応する状況が異なるが、どのようにアプローチしていくのか。
- ・市全域の現状調査と、良い方向へ向けるための問題をはっきりさせる活動は必要かと思えます。活動のターゲットを絞るべきではないでしょうか。

市との連携共同

- ・自主防災組織の実態課題について、団体と市が情報を共有することで、他の関連事業にも効果が波及することを期待しています。
- ・市も積極的に連携を取ってほしい。
- ・協働事業としての市の役割と、実行計画を明確にする必要があるように感じます。

その他／広報等

- ・調査内容やマニュアル等、広報、共有が重要と思われれます。インターネット等で検索できるだけでも利用価値が高まるので市のHPと連動できないか？
- ・大地震等が近い将来予想され、必要な事業であると思えます。経費の人件費と無償労働の区分がわかりづらいと思えます。

提案5 竹袋調整域と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

【各委員の意見】

活動評価、激励

- ・地域にしっかり根付いた活動だと思えます。
- ・大変かと思えます。頑張ってください。
- ・トイレのメンテは大変だと思えますが、しっかりお願いします。
- ・トイレ設置は良い。

- ・蓮の花が減少し、雑草が池内に増えている。
- ・周囲は手入れが良いが池内には課題があります。

後継者育成

- ・継続が必要なので、後継者の育成が課題であると思います。
- ・担い手が増えるような広報活動も頑張ってください。

市・関連団体と連携、役割分担

- ・調整池の市と市民団体の適切な役割分担がはかられていると感じます。
- ・課題については是非市と相談されて、できる所から解決していただきたいと思います。
- ・調整池の機能維持と周辺地域の環境整備が円滑に実施されるよう、団体と市担当部局との意見交換、情報交換を定期的に行ってください。
- ・調整池を公園のように。調整池活用の一つのケースだと思います。

以上